

# 華族のお医者

三遊亭円朝

青空文庫



工、たゞいま 当今の華族様とは違ひまして、今を去ること三十余よねん  
 年前、ぜん 御一新頃の華族様故、まだ品格があつて、兎角下とかくかじ  
やう 情の事にはお暗うござりますから、何事も御近習任せ。殿  
 「コレ登のぼる々々。登「ハツくお召でござりますか。殿「ア、予よ  
 は華族くわぞくの家に生れたが、如何いかに太平たいへいの御代とは申せども、手  
 を袖そでにして遊んで居つては済すまぬ、え我先祖は千軍萬馬の中なかを  
 往來わうらいいたし、君きみの御馬前ごばぜんにて血烟ちけむりを揚げ、槍先やりさきの功こう名みやう  
 に依よつて長年ながねん大禄たいろくを頂ちやうだい戴だいして居つたが、是これから追々おひく世よの  
なか中なかが開ひらけて来るに從したがつて時勢じせいも段々だんく変化へんくわして参まゐるから、何なにか  
み身みに一能のうを具そなへたいと考かんへて、予よは人知ひとしれず医学いがくを研究けんきゆうしたよ。

登「へえー夫は何うも結構な事で。殿「別に師匠も取らず書  
物に就いて独学をしたのぢやが、色々な事を発明したよ、  
まア見るが宜い、是だけ器械を集めたから。登「へ、へ、成程、  
何日の間に、何うも恐れ入りましたことで、併し私一人で拝見  
いたしますのも些と惜いやうで、彼所に詰合て居る者共にも  
一応見せてやりたく心得ますが……。殿「お、夫は宜からう、  
コレ伊丹も何も皆此所へ来い。伊「へい。登「上が是だけの  
お道具を何日の間にかお集めに成たのだ。伊「へえー、是は何と  
申すもので。殿「ウム、夫は検熱器と云ふものだ、是が聴診  
器、是が打診器と云ふものだ。伊「へえー。殿「二つ診てやら  
うか。登「いえ私は別段何処も。殿「いや然うでない、まア診

て遣はすから裸体になれ、是も稽古じや、何でも事は度々数を  
 掛んければいかぬからの。登「併し御前のお目通りで裸体になる  
 は恐入ますことで。殿「ナニ構はぬ、許すから宜い。登「然  
 らば御免を……エへ、斯ういふ事に致しますか。殿「ウム、好  
 い骨格ぢやな。登「へい、お蔭さまで四十五歳まで一度も煩ら  
 うたことはござりませぬ。殿「左様であらう、ソラ此器で脈  
 搏を聴くんだ、何うだグウ〜鳴るだらう。登「エへ、〜く  
 すぐつたうござりますな、左様横ツ腹へ器械をお当あそばしまし  
 ては。殿「いや斯ういふ処に病は多くあるものだからな、是から  
 一つ打診器で肺部を叩いて見てやらう。登「いや夫は何うも危う  
 ございます。殿「ナニ心配するな、ソラ斯ういふ塩梅だ、トン

トン／＼トンとナ。登「ア、痛うござります。殿「ハ、一少し逆ぎやくじやう  
上して居るやうぢやから、カルメロを一分三厘にヤーラツパ  
を五分調合して遣すから、小屋へ帰つて一日に三回の割合で  
服薬いたすがよい。登「へい、何うも有難う存じます、是は  
何うも大層奇麗なお薬で。殿「ウム、早く云へば水銀剤だな。  
登「へえー、之を飲ましたら喉が潰れませう。殿「ナニ大丈夫  
だ、決して左様な心配はない良く喉が潰れても病気さへ癒れば夫  
で宜からう。登「イエ喉が潰れては困ります。殿「ナニ心配する  
事はない、コレ井上此所へ出い、序に其方も診て遣はすから。  
井上「有難うは存じますが、何分裸体になりますのを些と憚  
ります儀で、生憎今日は下帯を締めて参りませぬから。殿

「イヤ許す、其様な事は毫も構はぬ、トントン何うぢやナ。井上  
「ア、何うも痛うござります、さう無闇にお叩きなすつちやア堪  
りませぬ。殿「まア黙つて居れ、ア、是は余程熱がある。井上  
「へえー熱がござりますか。殿「ウム、四十九度許ある。井上  
「其様にある訳はござりませぬ、夫ぢやア死んで了ひますから。  
殿「ア、成程、三十七度一分あるの、時々悪寒する事があ  
るだらう。井上「左様でござります。殿「ハー是は瘧だナ。井上  
「いゝえ瘧とは心得ませぬ。殿「これく何でも医者いしやの云ふ通  
になれ、素人の癖くせに何が解わかるものか、是は舍利塩しやりえんを四勿粉しもんめこ  
ぐすり薬にして遣つかはすから、硝盃コップに水を注つぎ能く溶といて然さうして飲のめ、  
それ夫それから規那塩きなえんを一分入ぶんいれる処ところぢやが、三分も加くはへよう。井上「其

んなあなたげきざい ぶんどぐわい いれ  
様に貴方劇剤を分度外にお入になりましては豪い事になりま  
せう。殿「ナニ宜しい、心配をするな、安心して直に此場で飲  
め、さア〜今度は其方も診てやらう、何歳ぢや。○「エ、  
三十七歳で。殿「何処か悪い処でもあるか。○「へい少々下  
腹が痛いやうで。殿「夫は何うも往かぬな、併しさういふのに  
は魔睡剤を用ゆると直に癒るて、モルヒネをな、エート一ゲレ  
ンは一厘六毛、一グラムとは一匁と申して三分ゲレンとは三割に  
して硝盃に三十滴が半ゲレンぢやが、見て居れ斯ういふ工合にす  
るのだ。と硝盃へ先に水を入れて、ポタリ〜と壘の口を開けな  
がら滴すのだが、中々素人にはさう旨く出来ない、二十滴と  
思つた奴が六十滴許出た。殿「まあ宜しい、是で負て置かう。此

様なものを負まられた者こそ因果いんぐわで、之これを服のみまして御前ごぜんを下さがると、  
 サア何どうも大たい変へん、当たう人にんは酷ひどい苦くしみやう、其その翌よく日じつへ口くちく  
 になつて出て来きました。登と「何どうだ、少よしは宜よろしいか、木内きのうち君くん。  
 木内「イヤ何どうにも斯かうにも実じつに華族くわぞくのお医者いしや杯などに係かるべきも  
 のではない、無闇むやみにアノ小こさな柎さいづち揆ちでコツコツ胸たを叩たたいたり何なん  
 かして加おま之けに劇ひどい薬のを飲のましたもんだから、昨夜ゆうべは何どうも七十六  
 度たか廁はへ通かつたよ。登と「夫それは大たい変へんだ、併しかし君きみはまだ一命めいがあるの  
 が幸しあ福はだ、大原伊丹君おほはらいいたみくんなど杯などは可愛かあい想そうにモルヒネを沢たく山飲さんのの  
 ませられたもんぢやから、到頭たうとう死しんで了しまつた。と話わをして居ゐる  
 のを殿とのが聴き付つけて殿と「コリヤく登のぼは出でたか。登と「へい、御機嫌ごきげん  
 宜よろしう。殿と「何どうぢや、工合くあいは。登と「何どうも劇げ剂きざいを多た量りやうにお

用ひに相成あひなりましたものと見えて、今日けふは余程よほど加減かげんが悪うござり  
 ます。殿「木内きのうちは何うどいたした。登「彼もあれ罷まかり出いでましたが、  
 これも強く逆ぎやく上じやういたし眼めがかすみ、頭あたまに熱もを持ち、カツカと  
 致いたして堪たまらぬ杯なごと申まうして居をりまする、夫それに可愛かあい想そうなのは大原伊  
 丹みで、彼あれは到頭たうとう生体しやうたいなしで未だ夢ま中むちゆうで居をります。殿  
 「ム、ー、彼あれだけの手当てあてに及およんでも息いきが出でんと申まうせば最早もはや全く命めい  
 数が尽つきたのかも知しれぬて、何どうしても氣きが附つかぬか。登「へ  
 イ、色々いろくに介抱かいほういたしましたきが附つきませぬ、此上このうへは如い  
 何かいたしませう。殿「イヤ、全くまった生体しやうたいなければ幸さいひぢやて、  
 今度こんどは解剖ふわけぢや。





# 青空文庫情報

底本：「明治の文学 第3巻 三遊亭円朝」筑摩書房

2001（平成13）年8月25日初版第1刷発行

底本の親本：「定本 円朝全集 巻の13」世界文庫

1964（昭和39）年6月発行

入力：門田裕志

校正：noriko saito

2009年6月19日作成

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<http://www>

W.aozora.gr.jp/) で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランテイアの皆さんです。

# 華族のお医者

三遊亭円朝

2020年 7月13日 初版

## 奥 付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail [info@aozora.gr.jp](mailto:info@aozora.gr.jp)

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>

※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。

<http://tokimi.sylphid.jp/>